

事例番号:370087

## 原因分析報告書要約版

産科医療補償制度  
原因分析委員会第三部会

### 1. 事例の概要

#### 1) 妊産婦等に関する情報

初産婦

#### 2) 今回の妊娠経過

特記事項なし

#### 3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 37 週 4 日

14:00 脳動脈瘤合併妊娠の適応で計画分娩および無痛分娩のため入院

#### 4) 分娩経過

妊娠 37 週 4 日

16:29 ムロイソル挿入

17:00 陣痛開始

妊娠 37 週 5 日

7:31 シノプロスト錠内服による陣痛促進開始(計 3 錠内服)

10:33 オキシシシ注射液による陣痛促進開始

15:02 吸引分娩により児娩出

#### 5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:37 週 5 日

(2) 出生時体重:2600g 台

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 7.24、BE -6.0mmol/L

(4) Apgar スコア:生後 1 分 8 点、生後 5 分 9 点または 10 点

(5) 新生児蘇生:実施なし

(6) 診断等:

生後 5 日 退院

生後 10 ヶ月 頸定未、筋緊張異常、発達の遅れあり

生後 11 ヶ月 混合型脳性麻痺疑い

(7) 頭部画像所見:

生後 11 ヶ月 頭部 MRI で脳室拡大や大脳基底核・視床に明らかな信号異常などを認めない

**6) 診療体制等に関する情報**

(1) 施設区分: 病院

(2) 関わった医療スタッフの数

医師: 産科医 2 名、小児科医 1 名、麻酔科医 1 名

看護スタッフ: 助産師 5 名

**2. 脳性麻痺発症の原因**

妊娠経過、分娩経過、新生児経過に脳性麻痺発症に関与する事象を認めず、脳性麻痺発症の原因は不明である。

**3. 臨床経過に関する医学的評価 (2020 年 4 月改定の表現を使用)**

**1) 妊娠経過**

妊娠中の管理は一般的である。

**2) 分娩経過**

(1) 妊娠 37 週 4 日に脳動脈瘤合併妊娠の適応で計画分娩および無痛分娩のため入院としたことは一般的である。

(2) 子宮収縮薬(ジプロストン錠およびキシトシ注射液の使用)について文書による説明と同意は一般的であるが、「原因分析に係る質問事項および回答書」によると、メロキシゲルの使用について口頭で説明し同意を得たことは基準を満たしていない。

(3) 妊娠 37 週 4 日にメロキシゲルを挿入したこと、およびメロキシゲル挿入中の分娩監視方法は、いずれも一般的である。

(4) 妊娠 37 週 5 日、メロキシゲル挿入中(妊娠 37 週 4 日に挿入し 1 時間以上分娩監

視装置を装着)にジプロロトン錠を投与したことは一般的である。

- (5) ジプロロトン錠の投与方法(1時間以上空けて1錠ずつ計3錠投与)および投与中の分娩監視方法(概ね連続的に分娩監視装置を装着)は一般的である。
- (6) 妊娠37週5日、ミノリンテルを抜去し、ジプロロトン錠の最終投与から1時間以上経過した後に、キシリシ注射液を投与したことは一般的である。
- (7) キシリシ注射液の開始時の投与量および分娩監視方法(連続的に分娩監視装置を装着)は一般的である。
- (8) 妊娠37週5日14時37分以降、キシリシ注射液を60mL/時間から72mL/時間の間で増減したことは選択肢のひとつである。
- (9) 脳動脈瘤合併のため極力努責をかけないよう留意した管理が行われており、胎児心拍数陣痛図上、軽度および高度変動一過性徐脈を繰り返し認める状況で、吸引分娩を行ったことは一般的である。
- (10) 吸引分娩の要約(既破水、子宮口全開大、児頭の位置 Sp+2cm から+3cm)および方法(牽引回数1回、総牽引時間20分以内)は、いずれも一般的である。
- (11) 臍帯動脈血ガス分析を実施したことは一般的である。

### 3) 新生児経過

新生児管理は一般的である。

## 4. 今後の産科医療の質の向上のために検討すべき事項

### 1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

ミノリンテルを使用する場合は、文書による説明と同意を得ることが望まれる。

### 2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

胎児心拍数陣痛図を5年間保存しておくことが望まれる。

【解説】本事例は、妊娠37週5日4時00分から4時52分の胎児心拍数陣痛図が保存されていなかった。「保険医療機関及び保険医療養担当規則」では、保険医療機関等は、医療および特定療養費に係る療養の取り扱いに関する帳簿及び書類その他の記録をその完結の日から3年間保存しなければならない。ただし、患者の診療録にあっては、その完結の日から5年間とされている。胎児心拍数陣痛図は、原因分析にあたり極めて重要

な資料であるため、今後は診療録と同等に保存することが望まれる。

**3) わが国における産科医療について検討すべき事項**

**(1) 学会・職能団体に対して**

原因不明の脳性麻痺の事例集積を行い、その病態についての研究を推進することが望まれる。

**(2) 国・地方自治体に対して**

なし。